



IPv6 ユニキャスト ルーティングの設定

- [IPv6 ユニキャスト ルーティングの設定について \(1 ページ\)](#)
- [IPv6 ユニキャスト ルーティングの設定方法 \(6 ページ\)](#)
- [IPv6 ユニキャスト ルーティングの設定例 \(22 ページ\)](#)
- [その他の参考資料 \(25 ページ\)](#)
- [機能情報 \(25 ページ\)](#)

IPv6 ユニキャスト ルーティングの設定について

この章では、スイッチに IPv6 ユニキャスト ルーティングを設定する方法について説明します。

IPv6 の概要

IPv4 ユーザは IPv6 に移行することができ、エンドツーエンドのセキュリティ、Quality of Service (QoS)、およびグローバルに一意なアドレスのようなサービスを利用できます。IPv6 アドレススペースによって、プライベートアドレスの必要性が低下し、ネットワーク エッジの境界ルータで Network Address Translation (NAT; ネットワーク アドレス変換) 処理を行う必要性も低下します。

シスコの IPv6 の実装方法については、次の URL を参照してください。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6553/products_ios_technology_home.html

IPv6 およびこの章のその他の機能については、

- 『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』を参照してください。
- Cisco.com の [Search] フィールドを使用して、Cisco IOS ソフトウェア マニュアルを特定します。たとえば、スタティック ルートについての情報が必要な場合は、[Search] フィールドで *Implementing Static Routes for IPv6* と入力すると、スタティック ルートについて調べられます。

IPv6 のスタティックルート

スタティックルートは手動で設定され、2つのネットワークデバイス間のルートを明示的に定義します。スタティックルートが有効なのは、外部ネットワークへのパスが1つしかない小規模ネットワークの場合、または大規模ネットワークで特定のトラフィックタイプにセキュリティを設定する場合です。

IPv6 のスタティックルーティングの設定 (CLI)

IPv6 用のスタティックルートの設定については、「IPv6 用のスタティックルーティングの設定」を参照してください。

スタティックルートの詳細については、Cisco.com で『Cisco IOS IPv6 Configuration Library』の「Implementing Static Routes for IPv6」の章を参照してください。

IPv6 ユニキャストのパス MTU ディスカバリ

スイッチはシステム最大伝送単位 (MTU) の IPv6 ノードへのアドバタイズおよびパス MTU ディスカバリをサポートします。パス MTU ディスカバリを使用すると、ホストは指定されたデータパスを通るすべてのリンクの MTU サイズを動的に検出して、サイズに合わせて調整できます。IPv6 では、パスを通るリンクの MTU サイズが小さくてパケットサイズに対応できない場合、パケットの送信元がフラグメンテーションを処理します。

ICMPv6

IPv6 のインターネット制御メッセージプロトコル (ICMP) は、ICMP 宛先到達不能メッセージなどのエラーメッセージを生成して、処理中に発生したエラーや、その他の診断機能を報告します。IPv6 では、ネイバー探索プロトコルおよびパス MTU ディスカバリに ICMP パケットも使用されます。

ネイバー探索

スイッチは、IPv6 対応の NDP、ICMPv6 の最上部で稼働するプロトコル、および NDP をサポートしない IPv6 ステーション対応のスタティック ネイバー エントリをサポートします。IPv6 ネイバー探索プロセスは ICMP メッセージおよび送信請求ノード マルチキャスト アドレスを使用して、同じネットワーク (ローカルリンク) 上のネイバーのリンク層アドレスを判別し、ネイバーに到達できるかどうかを確認し、近接ルータを追跡します。

スイッチは、マスク長が 64 未満のルートに対して ICMPv6 リダイレクトをサポートしていません。マスク長が 64 ビットを超えるホストルートまたは集約ルートでは、ICMP リダイレクトがサポートされません。

ネイバー探索スロットリングにより、IPv6 パケットをルーティングするためにネクストホップ転送情報を取得するプロセス中に、スイッチ CPU に不必要な負荷がかかりません。IPv6 パケットのネクストホップがスイッチによってアクティブに解決しようとしている同じネイバーである場合は、そのようなパケットが追加されると、スイッチはそのパケットをドロップします。このドロップにより、CPU に余分な負荷がかからないようになります。

DNS 設定の IPv6 ルータ アドバタイズメント オプション

大部分のインターネット サービスは、ドメイン ネーム サーバ (DNS) 名によって識別されます。IPv6 ルータアドバタイズメント (RA) には、IPv6 ホストでの自動 DNS 設定の実行を可能にする次の 2 つのオプションがあります。

- 再帰 DNS サーバ (RDNSS)
- DNS 検索リスト (DNSSL)

RDNSS には、IPv6 ホストでの DNS 名前解決に役立つ再帰 DNS サーバのアドレスが含まれています。DNS 検索リストは DNS サフィックスドメイン名のリストであり、IPv6 ホストで DNS クエリ検索を実行する際に使用されます。

DNS 設定の RA オプションの詳細については、IETF RFC 6106 を参照してください。

DNSSL の設定については、『*IP Addressing Services Configuration Guide*』の「*Configuring DNS Search List Using IPv6 Router Advertisement Options*」を参照してください。

デフォルト ルータ プリファレンス

スイッチは、ルータのアドバタイズメントメッセージの拡張機能である、IPv6 Default Router Preference (DRP) をサポートします。DRP では、特にホストがマルチホーム構成されていて、ルータが異なるリンク上にある場合に、ホストが適切なルータを選択する機能が向上しました。スイッチは、Route Information Option (RFC 4191) をサポートしません。

IPv6 ホストは、オフリンク宛先へのトラフィック用にルータを選択する、デフォルト ルータ リストを維持します。次に、宛先用に選択されたルータは、宛先キャッシュに格納されます。IPv6 NDP では、到達可能であるルータまたは到達可能性の高いルータが、到達可能性が不明または低いルータよりも優先されます。NDP は、到達可能または到達可能の可能性のあるルータとして、常に同じルータを選択するか、またはルータ リストから繰り返し使用できます。DRP を使用することにより、IPv6 ホストが、両方もが到達可能または到達可能の可能性のある 2 台のルータを差別化するように設定できます。

DRP for IPv6 の設定については、「*DRP の設定*」を参照してください。

DRP for IPv6 の詳細情報については、Cisco.com の『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』を参照してください。

IPv6 のポリシーベース ルーティング

ポリシーベースルーティング (PBR) は、トラフィックフローに定義ポリシーを設定し、ルートにおけるルーティングプロトコルへの依存度を軽くして、パケットのルーティングを柔軟に行えるようにします。したがって、PBR は、ルーティングプロトコルで提供される既存のメカニズムを拡張および補完することにより、ルーティングの制御を強化します。PBR を使用すると、IPv6 precedence を設定できます。単純なポリシーでは、これらのタスクのいずれかを使用し、複雑なポリシーでは、これらすべてのタスクを使用できます。高コストリンク上のプライオリティトラフィックなど、特定のトラフィックのパスを指定することもできます。

PBR for IPv6 は、転送される IPv6 パケットおよび送信される IPv6 パケットの両方に適用できます。転送されるパケットの場合、PBR for IPv6 は、次の転送パスでサポートされる IPv6 入力インターフェイス機能として実装されます。

- プロセス
- シスコ エクスプレス フォワーディング (旧称 CEF)
- 分散型シスコ エクスプレス フォワーディング

ポリシーは、IPv6 アドレス、ポート番号、プロトコル、またはパケットのサイズに基づいて作成できます。

PBR を使用すると、次の作業を実行できます。

- 拡張アクセスリスト基準に基づいてトラフィックを分類する。リストにアクセスし、次に一致基準を設定します。
- 差別化されたサービス クラスをイネーブルにする機能をネットワークに与える IPv6 precedence ビットを設定する。
- 特定のトラフィック エンジニアリング パスにパケットをルーティングする。ネットワークを介して特定の Quality of Service (QoS) を得るためにパケットをルーティングする必要がある場合があります。

PBR を使用すると、ネットワークのエッジでパケットを分類およびマーキングできます。PBR では、precedence 値を設定することにより、パケットをマーキングします。precedence 値は、ネットワーク コアにあるデバイスが適切な QoS をパケットに適用するために直接使用でき、これにより、パケットの分類がネットワーク エッジで維持されます。

PBR for IPv6 の有効化については、「ローカル PBR for IPv6 の有効化」を参照してください。

インターフェイスの IPv6 PBR の有効化については、「インターフェイスでの IPv6 PBR の有効化」を参照してください。

サポートされていない IPv6 ユニキャストルーティング機能

スイッチは、次の IPv6 機能をサポートしません。

- サイトローカルなアドレス宛ての IPv6 パケット
- IPv4/IPv6 や IPv6/IPv4 などのトンネリング プロトコル
- IPv4/IPv6 または IPv6/IPv4 トンネリング プロトコルをサポートするトンネル エンドポイントとしてのスイッチ
- IPv6 Web Cache Communication Protocol (WCCP)

IPv6 機能の制限

スイッチでは IPv6 はハードウェアに実装されるため、ハードウェアメモリ内の IPv6 圧縮アドレスによる制限がいくつか発生します。これらのハードウェア制限により、機能の一部が失われて、制限されます。

機能の制限は次のとおりです。

- スイッチはハードウェアで SNAP カプセル化 IPv6 パケットを転送できません。これらはソフトウェアで転送されます。
- スイッチはソースルート IPv6 パケットに関する QoS 分類をハードウェアで適用できません。

IPv6 とスイッチスタック

スイッチにより、スタック全体で IPv6 転送がサポートされ、アクティブスイッチで IPv6 ホスト機能がサポートされます。アクティブスイッチは IPv6 ユニキャストルーティングプロトコルを実行してルーティングテーブルを計算します。スタックメンバースイッチはテーブルを受信して、転送用にハードウェア IPv6 ルートを作成します。アクティブスイッチは、すべての IPv6 アプリケーションも実行します。

新しいスイッチがアクティブスイッチになる場合、新しいマスターは IPv6 ルーティングテーブルを再計算してこれをメンバースイッチに配布します。新しいアクティブスイッチが選択中およびリセット中の間には、スイッチスタックによる IPv6 パケットの転送は行われません。スタック MAC アドレスが変更され、これによって IPv6 アドレスが変更されます。 `ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64` インターフェイスコンフィギュレーションコマンドを使用して、拡張固有識別子 (EUI) でスタック IPv6 アドレスを指定する場合、アドレスは、インターフェイス MAC アドレスに基づきます。「IPv6 アドレッシングの設定と IPv6 ルーティングのイネーブル化」を参照してください。

スタック上で永続的な MAC アドレスを設定し、アクティブスイッチが変更された場合、スタック MAC アドレスは、約 4 分間、変更されません。

IPv6 アクティブスイッチおよびメンバーの機能は次のとおりです。

- アクティブスイッチ：
 - IPv6 ルーティングプロトコルの実行
 - ルーティングテーブルの生成
 - IPv6 用の分散型シスコ エクスプレス フォワーディングを使用するメンバースイッチにルーティングテーブルを配布します。
 - IPv6 ホスト機能および IPv6 アプリケーションの実行
- メンバースイッチ：
 - アクティブスイッチから IPv6 用のシスコ エクスプレス フォワーディングのルーティングテーブルを受信します。

- ハードウェアへのルートのプログラミング



(注) IPv6 パケットに例外 (IPv6 オプション) がなく、スタック内のスイッチでハードウェア リソースが不足していない場合、IPv6 パケットがスタック全体にわたってハードウェアでルーティングされます。

- アクティブスイッチの再選択で IPv6 用のシスコ エクスプレス フォワーディングのテーブルをフラッシュします。

IPv6 のデフォルト設定

表 1: IPv6 のデフォルト設定

機能	デフォルト設定
SDM テンプレート	デフォルトは拡張テンプレート
IPv6 ルーティング	すべてのインターフェイスでグローバルにディセーブル
IPv6 用 Cisco Express Forwarding または IPv6 用 distributed Cisco Express Forwarding (dCEF; 分散型シスコ エクスプレス フォワーディング)	無効 (IPv4 Cisco Express Forwarding および distributed Cisco Express Forwarding (dCEF; 分散型シスコ エクスプレス フォワーディング) はデフォルトでは有効) (注) IPv6 ルーティングを有効にすると、IPv6 用 Cisco Express Forwarding および IPv6 用 distributed Cisco Express Forwarding (dCEF; 分散型シスコ エクスプレス フォワーディング) は自動的に有効になります。
IPv6 アドレス	未設定

IPv6 ユニキャストルーティングの設定方法

ここでは、IPv6 ユニキャストルーティングに関して使用できるさまざまな設定オプションを示します。

IPv6 アドレッシングの設定と IPv6 ルーティングのイネーブル化

ここでは、IPv6 アドレスを各レイヤ3 インターフェイスに割り当てて、IPv6 トラフィックをスイッチ上でグローバル転送する方法を説明します。

スイッチ上の IPv6 を設定する前に、次の注意事項に従ってください。

- スイッチでは、この章で説明されたすべての機能がサポートされるわけではありません。「[サポートされていない IPv6 ユニキャストルーティング機能](#)」を参照してください。
- **ipv6 address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドでは、16 ビット値を使用したコロン区切りの 16 進形式で指定したアドレスで *ipv6-address* 変数および *ipv6-prefix* 変数を入力する必要があります。*prefix-length* 変数 (スラッシュ (/) で始まる) は、プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 10 進値です。

インターフェイス上の IPv6 トラフィックを転送するには、そのインターフェイス上でグローバル IPv6 アドレスを設定する必要があります。インターフェイス上で IPv6 アドレスを設定すると、リンクに対してローカルなアドレスの設定、およびそのインターフェイスに対する IPv6 のアクティブ化が自動的に行われます。設定されたインターフェイスは、次に示す、該当リンクの必須マルチキャストグループに自動的に参加します。

- インターフェイスに割り当てられた各ユニキャストアドレスの送信要求ノードマルチキャストグループ FF02:0:0:0:1:ff00::/104 (このアドレスはネイバー探索プロセスで使用される)
- すべてのノードを含む、ルータリンクに対してローカルなマルチキャストグループ FF02::1
- すべてのルータを含む、リンクに対してローカルなマルチキャストグループ FF02::2

IPv6 アドレスをインターフェイスから削除するには、**no ipv6 address *ipv6-prefix/prefix length eui-64*** または **no ipv6 address *ipv6-address link-local*** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。インターフェイスから手動で設定したすべての IPv6 アドレスを削除するには、**no ipv6 address** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを引数なしで使用します。IPv6 アドレスが明確に設定されていないインターフェイスで IPv6 処理を無効にするには、**no ipv6 enable** インターフェイス コンフィギュレーション コマンドを使用します。IPv6 ルーティングをグローバルに無効にするには、**no ipv6 unicast-routing** グローバルコンフィギュレーション コマンドを使用します。

IPv6 ルーティングの設定の詳細については、Cisco.com で『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing Addressing and Basic Connectivity for IPv6」の章を参照してください。

IPv6 アドレスをレイヤ3 インターフェイスに割り当て、IPv6 ルーティングを有効にするには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： デバイス> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： デバイス# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 {advanced vlan} 例： デバイス (config)# sdm prefer dual-ipv4-and-ipv6 vlan	IPv4 および IPv6 をサポートする SDM テンプレートを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • advanced : スイッチをアドバンスドテンプレートに設定します。 • vlan : ハードウェアでのルーティングをサポートしないスイッチでの VLAN 設定を最適化します。
ステップ 4	end 例： デバイス (config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	reload 例： デバイス# reload	オペレーティングシステムをリロードします。
ステップ 6	configure terminal 例： デバイス# configure terminal	スイッチのリロード後、グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	interface interface-id 例： デバイス (config)# interface gigabitethernet 1/0/1	インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。インターフェイスは物理インターフェイス、スイッチ仮想インターフェイス

	コマンドまたはアクション	目的
		(SVI)、またはレイヤ 3 EtherChannel に設定できます。
ステップ 8	no switchport 例 : デバイス (config-if) # no switchport	レイヤ 2 コンフィギュレーション モードからインターフェイスを削除します (物理インターフェイスの場合)。
ステップ 9	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64 • ipv6 address ipv6-address/prefix length • ipv6 address ipv6-address link-local • ipv6 enable • ipv6 address WORD • ipv6 address autoconfig • ipv6 address [dhcp] 例 : デバイス (config-if) # ipv6 address 2001:0DB8:c18:1::/64 eui 64 デバイス (config-if) # ipv6 address 2001:0DB8:c18:1::/64 デバイス (config-if) # ipv6 address 2001:0DB8:c18:1:: link-local デバイス (config-if) # ipv6 enable	<ul style="list-style-type: none"> • IPv6 アドレスの下位 64 ビットの拡張固有識別子 (EUI) を使用して、グローバル IPv6 アドレスを指定します。ネットワーク プレフィックスだけを指定します。最終の 64 ビットは、スイッチの MAC アドレスから自動的に計算されます。これにより、インターフェイス上で IPv6 処理がイネーブルになります。 • インターフェイスの IPv6 アドレスを手動で設定します。 • インターフェイスで IPv6 がイネーブルな場合に自動設定されるリンクローカルなアドレスでなく、インターフェイス上の特定のリンクローカルなアドレスを使用するように指定します。このコマンドにより、インターフェイス上で IPv6 処理がイネーブルになります。 • インターフェイスに IPv6 リンクローカルなアドレスを自動設定し、インターフェイスでの IPv6 処理をイネーブルにします。リンクに対してローカルなアドレスを使用できるのは、同じリンク上のノードと通信する場合だけです。
ステップ 10	exit 例 : デバイス (config-if) # exit	グローバル コンフィギュレーション モードに戻ります。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 11	ip routing 例： デバイス(config)# ip routing	スイッチ上でIPルーティングをイネーブルにします。
ステップ 12	ipv6 unicast-routing 例： デバイス(config)# ipv6 unicast-routing	IPv6 ユニキャストデータパケットの転送をイネーブルにします。
ステップ 13	end 例： デバイス(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 14	show ipv6 interface interface-id 例： デバイス# show ipv6 interface gigabitethernet 1/0/1	入力を確認します。
ステップ 15	copy running-config startup-config 例： デバイス# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

IPv4 および IPv6 プロトコルスタックの設定

IPv4 および IPv6 を両方サポートし、IPv6 ルーティングがイネーブルになるようにレイヤ 3 インターフェイスを設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。



- (注) IPv6 アドレスが設定されていないインターフェイスで IPv6 処理をディセーブルにするには、インターフェイス コンフィギュレーションモードで **no ipv6 enable** コマンドを使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	ip routing 例： Device(config)# ip routing	スイッチ上でルーティングをイネーブルにします。
ステップ 4	ipv6 unicast-routing 例： Device(config)# ipv6 unicast-routing	スイッチ上で IPv6 データ パケットの転送をイネーブルにします。
ステップ 5	interface interface-id 例： Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1	インターフェイス コンフィギュレーションモードを開始し、設定するレイヤ 3 インターフェイスを指定します。
ステップ 6	no switchport 例： Device(config-if)# no switchport	レイヤ 2 コンフィギュレーションモードからインターフェイスを削除します（物理インターフェイスの場合）。
ステップ 7	ip address ip-address mask [secondary] 例： Device(config-if)# ip address 10.1.2.3 255.255.255	インターフェイスのプライマリまたはセカンダリ IPv4 アドレスを指定します。
ステップ 8	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none">• ipv6 address ipv6-prefix/prefix length eui-64• ipv6 address ipv6-address/prefix length• ipv6 address ipv6-address link-local• ipv6 enable• ipv6 address WORD• ipv6 address autoconfig• ipv6 address dhcp	<ul style="list-style-type: none">• グローバル IPv6 アドレスを指定します。ネットワークプレフィックスだけを指定します。最終の 64 ビットは、スイッチの MAC アドレスから自動的に計算されます。• インターフェイスで IPv6 がイネーブルな場合に自動設定されるリンクローカルなアドレスでなく、インターフェイス上のリンクローカルなアドレスを使用するように指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • インターフェイスに IPv6 リンクローカルなアドレスを自動設定し、インターフェイスでの IPv6 処理をイネーブルにします。リンクに対してローカルなアドレスを使用できるのは、同じリンク上のノードと通信する場合だけです。 <p>(注) インターフェイスから手動で設定したすべての IPv6 アドレスを削除するには、no ipv6 address インターフェイス コンフィギュレーションコマンドを引数なしで使用します。</p>
ステップ 9	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 10	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • show interface interface-id • show ip interface interface-id • show ipv6 interface interface-id 	入力を確認します。
ステップ 11	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

再帰 DNS サーバ (RDNSS) の設定

最大 8 つの DNS サーバを設定し、ルータ アドバタイズメントを使用してアドバタイズできます。また、このコマンドの **no** 形式を使用して、アドバタイズングリストから 1 つ以上の DNS サーバを削除できます。

始める前に

正しい VDC 内にいることを確認します (あるいは、**switchto vdc** コマンドを使用します)。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	interface ethernet number 例： Device (config)# interface ethernet 3/3	インターフェイス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 4	ipv6 nd ra dns server ipv6-addr [rdnss-life infinite] sequence sequence-num 例： Device (config-if)# ipv6 nd ra dns server 1::1 1000 sequence 0	再帰 DNS サーバを設定します。サーバの有効期間と順序を指定できます。
ステップ 5	show ipv6 nd ra dns server [interface interface] 例： Device (config-if)# show ipv6 nd ra dns server	(任意) 設定した RDNSS リストを表示します。
ステップ 6	ipv6 nd ra dns server suppress 例： Device (config-if)# ipv6 nd ra dns server suppress	(任意) 設定したサーバリストをディセーブルにします。

デフォルトルータ プリファレンス (DRP) の設定

ルータアドバタイズメント (RA) メッセージは、**ipv6 nd router-preference** インターフェイス コンフィギュレーションコマンドによって設定されるデフォルトルータプリファレンス (DRP) とともに送信されます。DRP が設定されていない場合は、RA は中小規模のプリファレンスとともに送信されます。

リンク上の2つのルータが等価ではあっても、等コストではないルーティングを提供する可能性がある場合、およびポリシーでホストがいずれかのルータを選択するよう指示された場合は、DRP が有効です。

IPv6 の DRP の設定の詳細については、Cisco.com で『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing IPv6 Addresses and Basic Connectivity」の章を参照してください。

インターフェイス上のルータに DRP を設定するには、特権 EXEC モードで次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	interface interface-id 例： Device(config)# interface gigabitethernet 1/0/1	インターフェイスコンフィギュレーションモードを開始して、DRP を指定するレイヤ 3 インターフェイスを特定します。
ステップ 4	ipv6 nd router-preference {high medium low} 例： Device(config-if)# ipv6 nd router-preference medium	スイッチ インターフェイス上のルータに DRP を指定します。
ステップ 5	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 6	show ipv6 interface 例： Device# show ipv6 interface	設定を確認します。
ステップ 7	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

IPv6 ICMP レート制限の設定

ICMP レート制限はデフォルトでイネーブルです。エラーメッセージのデフォルト間隔は 100 ミリ秒、デフォルトバケットサイズ（バケットに格納される最大トークン数）は 10 です。

ICMP のレート制限パラメータを変更するには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 3	ipv6 icmp error-interval interval [bucketsize] 例： Device(config)# ipv6 icmp error-interval 50 20	IPv6 ICMP エラー メッセージの間隔とバケット サイズを設定します。 <ul style="list-style-type: none"> • <i>interval</i> : バケットに追加されるトークンの間隔（ミリ秒）。指定できる範囲は 0 ～ 2147483647 ミリ秒です。 • <i>bucketsize</i> : （任意）バケットに格納される最大トークン数。指定できる範囲は 1 ～ 200 です。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	show ipv6 interface [interface-id] 例： Device# show ipv6 interface gigabitethernet0/1	入力を確認します。
ステップ 6	copy running-config startup-config 例： Device# copy running-config startup-config	（任意）コンフィギュレーション ファイルに設定を保存します。

IPv6 用のシスコ エクスプレス フォワーディングおよび分散型シスコ エクスプレス フォワーディングの設定

シスコ エクスプレス フォワーディングは、ネットワークパフォーマンスを最適化するためのレイヤ 3 IP スイッチングテクノロジーです。シスコ エクスプレス フォワーディングには高度な IP 検索および転送アルゴリズムが実装されているため、レイヤ 3 スイッチングのパフォーマンスを最大化できます。高速スイッチング ルート キャッシュよりも CPU にかかる負担が少

ないため、CEFはより多くのCPU処理能力をパケット転送に振り分けることができます。IPv4用のシスコエクスプレスフォワーディングおよび分散型シスコエクスプレスフォワーディングはデフォルトで有効になっています。IPv6用のシスコエクスプレスフォワーディングおよび分散型シスコエクスプレスフォワーディングはデフォルトでは無効になっていますが、IPv6ルーティングを設定すると自動的に有効になります。

IPv6ルーティングの設定を解除するとIPv6用のシスコエクスプレスフォワーディングおよび分散型シスコエクスプレスフォワーディングは自動的に無効になります。IPv6用のシスコエクスプレスフォワーディングおよび分散型シスコエクスプレスフォワーディングを設定で無効にすることはできません。IPv6の状態を確認するには、特権EXECモードで **show ipv6 cef** コマンドを入力します。

IPv6ユニキャストパケットをルーティングするには、最初に **ipv6 unicast-routing** グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用して、IPv6ユニキャストパケットの転送をグローバルに設定してから、インターフェイスコンフィギュレーションモードで **ipv6 address** コマンドを使用して、特定のインターフェイスにIPv6アドレスおよびIPv6処理を設定する必要があります。

シスコエクスプレスフォワーディングおよび分散型シスコエクスプレスフォワーディングの設定の詳細については、Cisco.comの『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』を参照してください。

IPv6 のスタティックルーティングの設定

スタティックIPv6ルーティングの設定の詳細については、Cisco.comで『*Cisco IOS IPv6 Configuration Library*』の「Implementing Static Routes for IPv6」の章を参照してください。

スタティックIPv6ルーティングを設定するには、次の手順を実行します。

始める前に

ip routing グローバルコンフィギュレーションコマンドを使用してルーティングをイネーブルにし、グローバルコンフィギュレーションモードで **ipv6 unicast-routing** コマンドを使用してIPv6パケットの転送をイネーブルにします。また、インターフェイスにIPv6アドレスを設定して少なくとも1つのレイヤ3インターフェイス上でIPv6をイネーブルにする必要があります。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権EXECモードを有効にします。 パスワードを入力します（要求された場合）。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバルコンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	<p>ipv6 route <i>ipv6-prefix/prefix length</i> <i>{ipv6-address interface-id [ipv6-address]}</i> <i>[administrative distance]</i></p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# ipv6 route 2001:0DB8::/32 gigabitethernet2/0/1 130</pre>	<p>スタティック IPv6 ルートを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>ipv6-prefix</i> : スタティック ルートの宛先となる IPv6 ネットワーク。スタティック ホスト ルートを設定する場合は、ホスト名も設定できます。 • <i>/prefix length</i> : IPv6 プレフィックスの長さ。プレフィックス (アドレスのネットワーク部分) を構成するアドレスの上位連続ビット数を示す 10 進値です。10 進数値の前にスラッシュ記号が必要です。 • <i>ipv6-address</i> : 指定したネットワークに到達するために使用可能なネクストホップの IPv6 アドレス。ネクストホップの IPv6 アドレスを直接接続する必要はありません。再帰処理が実行されて、直接接続されたネクストホップの IPv6 アドレスが検出されます。このアドレスは RFC 2373 に記載された形式 (16 ビット値を使用したコロン区切りの 16 進表記で指定) で設定する必要があります。 • <i>interface-id</i> : Point-To-Point (ポイントツーポイント) インターフェイスおよびブロードキャスト インターフェイスからのダイレクトスタティック ルートを指定します。ポイントツーポイント インターフェイスの場合、ネクストホップの IPv6 アドレスを指定する必要はありません。ブロードキャスト インターフェイスの場合は、常にネクストホップの IPv6 アドレスを指定するか、または指定したプレフィックスをリンクに割り当てて、リンクに対してローカルなアドレスをネクストホップとして指定する必要があります。パケットの送信先となるネ

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>クスト ホップの IPv6 アドレスを指定することもできます。</p> <p>(注) リンクに対してローカルなアドレスをネクストホップとして使用する場合は、<i>interface-id</i> を指定する必要があります (リンクに対してローカルなネクストホップを隣接ルータに設定する必要もあります)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>administrative distance</i> : (任意) アドミニストレーティブディスタンス。指定できる範囲は 1 ~ 254 です。デフォルト値は 1 で、この場合、接続されたルートを除くその他のどのルートタイプよりも、スタティックルートが優先します。フローティングスタティックルートを設定する場合は、ダイナミックルーティングプロトコルよりも大きなアドミニストレーティブディスタンスを使用します。
ステップ 4	<p>end</p> <p>例 :</p> <pre>Device(config)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。
ステップ 5	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • show ipv6 static [<i>ipv6-address</i> <i>ipv6-prefix/prefix length</i>] [interface <i>interface-id</i>] [detail][recursive] [detail] • show ipv6 route static [<i>updated</i>] <p>例 :</p> <pre>Device# show ipv6 static 2001:0DB8::/32 interface gigabitethernet2/0/1</pre> <p>または</p> <pre>Device# show ipv6 route static</pre>	<p>IPv6 ルーティングテーブルの内容を表示して、設定を確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • interface <i>interface-id</i> : (任意) 出力インターフェイスとして指定されたインターフェイスを含むスタティックルートのみを表示します。 • recursive : (任意) 再帰スタティックルートのみを表示します。recursive キーワードは interface キーワードと相互に排他的です。ただし、コマンド構文に IPv6 プレフィックスが指定されているかどうかに関係なく、使用できます。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> • detail : (任意) 次に示す追加情報を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • 有効な再帰ルートの場合、出力パス セットおよび最大分解深度 • 無効なルートの場合、ルートが無効な理由
ステップ 6	copy running-config startup-config 例 : Device# copy running-config startup-config	(任意) コンフィギュレーションファイルに設定を保存します。

インターフェイスでの IPv6 PBR の有効化

IPv6 のポリシーベース ルーティング (PBR) を有効にするには、パケットの一致基準と目的のポリシールーティングアクションを指定する、ルート マップを作成する必要があります。次に、そのルートマップを必要なインターフェイスに関連付けます。指定されたインターフェイスに到着し、**match** 句に一致するすべてのパケットに対して、PBR が実行されます。

PBR では、**set vrf** コマンドにより Virtual Routing and Forwarding (VRF) インスタンスとインターフェイスアソシエーションを切り離し、既存の PBR またはルートマップ設定を使用して、アクセスコントロールリスト (ACL) ベースの分類に基づいて VRF を選択できるようになります。このコマンドは、1つのルータに複数ルーティングテーブルを提供し、ACL 分類に基づいてルートを選択できるようにします。ルータは、ACL に基づいてパケットを分類し、ルーティングテーブルを選択し、宛先アドレスを検索し、パケットをルーティングします。

PBR for IPv6 を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例 : Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例 : Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 3	route-map <i>map-tag</i> [permit deny] <i>[sequence-number]</i> 例 : Device(config)# route-map rip-to-ospf permit	ルーティング プロトコル間でルートを再配布する条件を定義するか、ポリシールーティングを有効にしてルートマップ コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • match length <i>minimum-length maximum-length</i> • match ipv6 address {prefix-list prefix-list-name access-list-name} 例 : Device(config-route-map)# match length 3 200 例 : Device(config-route-map)# match ipv6 address marketing	一致基準を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 次のうちの任意の項目またはすべてを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • レベル3の packets 長とのマッチング。 • 指定された IPv6 アクセス リストとのマッチング。 • match コマンドを指定しない場合、ルートマップはすべての packets に適用されます。
ステップ 5	次のいずれかを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> • set ipv6 next-hop <i>global-ipv6-address [global-ipv6-address...]</i> • set interface type number [<i>...type number</i>] • set ipv6 default next-hop <i>global-ipv6-address [global-ipv6-address...]</i> • set vrf vrf-name 例 : Device(config-route-map)# set ipv6 next-hop 2001:DB8:2003:1::95 例 : Device(config-route-map)# set ipv6 default next-hop 2001:DB8:2003:1::95	基準に一致した packets に適用するアクション (1 つまたは複数) を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> • 次のうちの任意の項目またはすべてを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • packets のルーティング先となるネクスト ホップを設定します (ネクスト ホップは隣接している必要があります)。 • 宛先への明示的なルートがない場合に、packets のルーティング先となるネクスト ホップを設定します。
ステップ 6	exit 例 : Device(config-route-map)# exit	ルートマップ インターフェイス コンフィギュレーションモードを終了して、グローバル コンフィギュレーションモードに戻ります。
ステップ 7	interface <i>type number</i> 例 : Device(config)# interface FastEthernet 1/0	インターフェイスのタイプと番号を指定し、ルータをインターフェイスコンフィギュレーションモードにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	ipv6 policy route-map <i>route-map-name</i> 例： Device(config-if)# ipv6 policy-route-map interactive	インターフェイスで IPv6 PBR に使用するルートマップを特定します。
ステップ 9	end 例： Device(config-if)# end	インターフェイスコンフィギュレーションモードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。

ローカル PBR for IPv6 の有効化

デバイスが生成したパケットに対して、通常はポリシーによるルーティングは行われません。これらのパケットのためのローカル IPv6 ポリシーベースルーティング (PBR) をイネーブルにするには、この作業を実行して、どのルートマップをデバイスで使用するべきかを示します。

ローカル PBR for IPv6 を有効にするには、次の手順を実行します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	enable 例： Device> enable	特権 EXEC モードを有効にします。 パスワードを入力します (要求された場合)。
ステップ 2	configure terminal 例： Device# configure terminal	グローバル コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 3	ipv6 local policy route-map <i>route-map-name</i> 例： Device(config)# ipv6 local policy route-map pbr-src-90	デバイスによって生成されるパケットに対する IPv6 PBR を設定します。
ステップ 4	end 例： Device(config)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

IPv6 の表示

次のコマンドの構文および使用方法の詳細については、Cisco IOS のコマンド リファレンスを参照してください。

表 2: IPv6 をモニタリングするコマンド

コマンド	目的
<code>show ipv6 access-list</code>	アクセス リストのサマリーを表示します。
<code>show ipv6 cef</code>	IPv6 の Cisco エクスプレス フォワーディングを表示します。
<code>show ipv6 interface <i>interface-id</i></code>	IPv6 インターフェイスのステータスと設定を表示します。
<code>show ipv6 mtu</code>	宛先キャッシュごとに IPv6 MTU を表示します。
<code>show ipv6 neighbors</code>	IPv6 ネイバー キャッシュ エントリを表示します。
<code>show ipv6 prefix-list</code>	IPv6 プレフィックス リストを表示します。
<code>show ipv6 protocols</code>	スイッチの IPv6 ルーティング プロトコルのリストを表示します。
<code>show ipv6 rip</code>	IPv6 RIP ルーティング プロトコル ステータスを表示します。
<code>show ipv6 route</code>	IPv6 ルート テーブル エントリを表示します。
<code>show ipv6 static</code>	IPv6 スタティック ルートを表示します。
<code>show ipv6 traffic</code>	IPv6 トラフィックの統計情報を表示します。

IPv6 ユニキャストルーティングの設定例

ここでは、IPv6 ユニキャストルーティングに関して使用できるさまざまな設定例を示します。

例：IPv4 および IPv6 プロトコルスタックの設定

次に、インターフェイス上で IPv4 および IPv6 ルーティングをイネーブルにする例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
```

```

Device(config)# ip routing
Device(config)# ipv6 unicast-routing
Device(config)# interface fastethernet1/0/11
Device(config-if)# no switchport
Device(config-if)# ip address 192.168.99.1 255.255.255.0
Device(config-if)# ipv6 address 2001:0DB8:c18:1::/64 eui 64
Device(config-if)# end

```

例 : RDNSS の設定

次の例は、Ethernet 3/3 に再帰 DNS サーバリストを設定し、同じであることを確認する方法を示しています。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface ethernet 3/3
Device(config-if)# ipv6 nd ra dns server 1::1 1000 sequence 0
Device(config-if)# ipv6 nd ra dns server 2::1 infinite sequence 1
Device(config-if)# exit

Device(config)# show ipv6 nd ra dns server

Recursive DNS Server List on: mgmt0
Suppress DNS Server List: No
Recursive DNS Server List on: Ethernet3/3
  Suppress DNS Server List: No
  DNS Server 1: 1::1 Lifetime:1000 seconds Sequence:0
  DNS Server 2: 2::1 Infinite Sequence:1

```

例 : DNSSSL の設定

次の例は、Ethernet 3/3 に DNS 検索リストを設定し、同じであることを確認する方法を示しています。

```

Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface ethernet 3/3
Device(config-if)# ipv6 nd ra dns search-list cisco.com 100 sequence 1
Device(config-if)# ipv6 nd ra dns search-list ind.cisco.com 100 sequence 2
Device(config-if)# exit

Device(config)# show ipv6 nd ra dns search-list

DNS Search List on: mgmt0
Suppress DNS Search List: No
DNS Search List on: Ethernet3/3
  Suppress DNS Search List: No
  DNS Server 1:cisco.com 100 Sequence:1
  DNS Server 2:ind.cisco.com 100 Sequence:2

```

例 : デフォルト ルータ プリファレンスの設定

次に、インターフェイス上のルータに高い DRP を設定する例を示します。

例：IPv6 ICMP レート制限の設定

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# interface gigabitethernet1/0/1
Device(config-if)# ipv6 nd router-preference high
Device(config-if)# end
```

例：IPv6 ICMP レート制限の設定

次に、IPv6 ICMP エラー メッセージ間隔を 50 ミリ秒に、バケット サイズを 20 トークンに設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)#ipv6 icmp error-interval 50 20
```

例：IPv6 のスタティックルーティングの設定

次に、アドミニストレーティブ ディスタンスが 130 のフローティング スタティック ルートをインターフェイスに設定する例を示します。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 route 2001:0DB8::/32 gigabitethernet 0/1 130
```

例：インターフェイスでの PBR のイネーブル化

次の例では、pbr-dest-1 という名前のルート マップを作成および設定し、パケット一致基準および目的のポリシー ルーティング アクションを指定します。次に、PBR が GigabitEthernet インターフェイス 0/0/1 でイネーブルにされます。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list match-dest-1
Device(config)# permit ipv6 any 2001:DB8:2001:1760::/32
Device(config)# route-map pbr-dest-1 permit 10
Device(config)# match ipv6 address match-dest-1
Device(config)# set interface GigabitEthernet 0/0/0
Device(config)# interface GigabitEthernet0/0/1
Device(config-if)# ipv6 policy-route-map interactive
```

例：ローカル PBR for IPv6 の有効化

次の例では、宛先 IPv6 アドレスがアクセス リスト pbr-src-90 で許可されている IPv6 アドレス範囲に一致するパケットが、IPv6 アドレス 2001:DB8:2003:1::95 のデバイスに送信されています。

```
Device> enable
Device# configure terminal
Device(config)# ipv6 access-list src-90
Device(config)# permit ipv6 host 2001:DB8:2003::90 2001:DB8:2001:1000::/64
Device(config)# route-map pbr-src-90 permit 10
Device(config)# match ipv6 address src-90
```



```
Device(config)# set ipv6 next-hop 2001:DB8:2003:1::95
Device(config)# ipv6 local policy route-map pbr-src-90
```

例：IPv6 の表示

次に、**show ipv6 interface** コマンドの出力の例を示します。

```
Device> enable
Device# show ipv6 interface
Vlan1 is up, line protocol is up
IPv6 is enabled, link-local address is FE80::20B:46FF:FE2F:D940
Global unicast address(es):
  3FFE:C000:0:1:20B:46FF:FE2F:D940, subnet is 3FFE:C000:0:1::/64 [EUI]
Joined group address(es):
  FF02::1
  FF02::2
  FF02::1:FF2F:D940
MTU is 1500 bytes
ICMP error messages limited to one every 100 milliseconds
ICMP redirects are enabled
ND DAD is enabled, number of DAD attempts: 1
ND reachable time is 30000 milliseconds
ND advertised reachable time is 0 milliseconds
ND advertised retransmit interval is 0 milliseconds
ND router advertisements are sent every 200 seconds
ND router advertisements live for 1800 seconds
<output truncated>
```

その他の参考資料

標準および RFC

標準/RFC	タイトル
RFC 5453	予約済み IPv6 インターフェイス識別子

機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレーンで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

表 3: IPv6 ユニキャストおよびルーティングの機能情報

機能名	リリース	機能情報
IPv6 ユニキャストおよびルーティング	Cisco IOS XE Everest 16.6.1	ユニキャストおよびルーティング機能が IPv6 に対してサポートされました。
RFC 5453	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	RFC 5453 がサポートされています。
DNS 設定の IPv6 ルータ アドバタイズメント オプション	Cisco IOS XE Gibraltar 16.11.1	この機能が導入されました。